

科目名 教育心理学
Title Educational Psychology
科目区分 教職関連科目 (地域政策学部)

教授 担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

この科目では、教育の受け手としての「人」の理解を目的とし、発達（人はどのように成長するのか）、学習（人はどのように学ぶのか）に関する心理学的知見を学ぶ。さらに、それらの知識を実際の教育活動にどのように結び付けていくのかを考える。

達成目標

心身の発達に関する学術的研究の知識を習得し、それに基づく人に対する多角的視点から、教育活動を理解することができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス 発達における遺伝と環境
- 第2回 発達1 乳幼児の心身発達
- 第3回 発達2 認知の発達（ピアジェ理論）
- 第4回 発達3 道德性の発達
- 第5回 発達4 仲間意識の発達
- 第6回 発達5 わたし意識の発達
- 第7回 学習1 経験から学ぶ - 学習理論 -
- 第8回 学習2 こころの重視 - 動機付け -
- 第9回 学習3 記憶と忘却の仕組み
- 第10回 学習4 転移の促進と抑制
- 第11回 適応 子どもを巡る環境の変化
- 第12回 学級づくり1 構成的グループエンカウンター
- 第13回 学級づくり2 ソーシャル・スキル
- 第14回 心身障害児の理解と教育 発達障害の理解
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

授業は、大きく3つのテーマに分かれて展開する。同一テーマの授業は、内容が連続しているため、配布プリント・資料等で前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、教育に関するニュースにも関心を持ち、日頃から積極的に情報収集を行うこと。

評価方法

定期試験50%、平常点：50%（小テスト、および各回で授業の要約を作成）

履修上の注意

欠席回のプリントは、自己都合の場合、後日配布しません（公欠を除く）。授業の進行上、シラバスの内容を変更する場合がある。
なお、人格・知能については、別に開講する「教育測定及び方法」にて詳しく取り上げるため、関心のあるものはそちらも受講すること。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目(地域政策学部)

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 吉原 美那子(ヨシハラ ミナコ)

E-Mail

配当年次
4

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

教職実践演習は、教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。教職課程の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されていることを最終的に確認するものである。将来、教員になるにあたり自分にとって何が課題であるのか、不足している知識や技能は何かを探り出し、それらを本演習で補い定着を図ることが目的である。

達成目標

教員として必要な次の4項目の資質を確認する。

- ①教職に対する使命感や責任感、教育的愛情が豊かであること ②社会性や対人関係能力が適切であること
③生徒理解や学級経営等に関する資質を身につけていること ④教科等の指導に対する技能・知識を身に習得していること

スケジュール

- 第1回～第2回 「教職実践演習」の目的、計画と進め方についての説明等。
これまで教職課程で学んできたことの確認。
- 第3回～第5回 教育実習終了者の体験報告を通して、各学校の取り組みや実践、実習生としての活動等を確認し、今日の子どもの特性や教員の役割について考える。
(ロールプレイングやディスカッション形式)
- 第6回～第8回 学校現場への理解：現地調査(フィールドワーク)やゲストスピーカーによる講話を通して、次の4項目を理解しているかを確認する。
①教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務
②教員組織における自己の役割や、他の教職員と協力した校務運営の重要性
③保護者や地域との連携・協力の重要性
④社会人としての基本マナー
- 第9回～第13回 教科等の指導研究：模擬授業やグループ活動を通して次の3つを研究する。
①学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能など)
②教材研究の方法や、教材・教具、学習形態、学習指導案等の作成
③教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり
- 第13回～第14回 教育的課題の考察：生徒理解と学級経営のなかで生じる問題、生徒の問題行動、いじめや不登校、特別支援教育等の今日的な教育課題について事例研究を通して考察する。
- 第15回 研究発表会(最終プレゼンテーション)
これから教員として基本的な資質・能力が全般にわたって備わっているかを確認する。

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 授業内で紹介する。

授業外での学習

- <授業を始める前に>教育実習について各自で記録のまとめをしておくこと。
<履修カルテ>記入方法、提出日を授業中に説明するので、締め切りまでに各自で記入しておくこと。
<模擬授業・研究発表会>グループごとに発表日までに準備をすること。

評価方法

それぞれの課題の参画状況や成果を「目的」の①～④に照らし合わせて点数化し、教員としての最低限の資質・能力・知識が身につけているか確認した上で評価を行う。(前年度の参考：ディスカッション等(15%)、学校現場のフィールドワーク(20%)、模擬授業とその考察(30%)、履修カルテ(5%)、最終プレゼンテーション(30%))

履修上の注意

上記のスケジュールはあくまでも目安である。詳細は第1回の授業にて担当教員が説明する。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目(地域政策学部)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 高橋 望(タカハシ ノゾム)

E-Mail

配当年次
4

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

教職実践演習は、教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。教職課程の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されていることを最終的に確認するものである。将来、教員になるにあたり自分にとって何が課題であるのか、不足している知識や技能は何かを探り出し、それらを本演習で補い定着を図ることが目的である。

達成目標

教員として必要な次の4項目の資質を確認する。
①教職に対する使命感や責任感、教育的愛情が豊かであること ②社会性や対人関係能力が適切であること
③生徒理解や学級経営等に関する資質を身につけていること ④教科等の指導に対する技能・知識を身に習得していること

スケジュール

- 第1回～第2回 「教職実践演習」の目的、計画と進め方についての説明等。
これまで教職課程で学んできたことの確認。
- 第3回～第5回 教育実習終了者の体験報告を通して、各学校の取り組みや実践、実習生としての活動等を確認し、今日の子どもの特性や教員の役割について考える。
(ロールプレイングやディスカッション形式)
- 第6回～第8回 学校現場への理解：現地調査(フィールドワーク)やゲストスピーカーによる講話を通して、次の4項目を理解しているかを確認する。
①教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務
②教員組織における自己の役割や、他の教職員と協力した校務運営の重要性
③保護者や地域との連携・協力の重要性
④社会人としての基本マナー
- 第9回～第13回 教科等の指導研究：模擬授業やグループ活動を通して次の3つを研究する。
①学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能など)
②教材研究の方法や、教材・教具、学習形態、学習指導案等の作成
③教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり
- 第13回～第14回 教育的課題の考察：生徒理解と学級経営のなかで生じる問題、生徒の問題行動、いじめや不登校、特別支援教育等の今日的な教育課題について事例研究を通して考察する。
- 第15回 研究発表会(最終プレゼンテーション)
これから教員として基本的な資質・能力が全般にわたって備わっているかを確認する。

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 授業内で紹介する。

授業外での学習

- <授業を始める前に>教育実習について各自で記録のまとめをしておくこと。
<履修カルテ>記入方法、提出日を授業中に説明するので、締め切りまでに各自で記入しておくこと。
<模擬授業・研究発表会>グループごとに発表日までに準備をすること。

評価方法

それぞれの課題の参画状況や成果を「目的」の①～④に照らし合わせて点数化し、教員としての最低限の資質・能力・知識が身につけているか確認した上で評価を行う。(前年度の参考：ディスカッション等(15%)、学校現場のフィールドワーク(20%)、模擬授業とその考察(30%)、履修カルテ(5%)、最終プレゼンテーション(30%))

履修上の注意

- ①上記のスケジュールはあくまでも目安である。詳細は第1回の授業にて担当教員が説明する。
②出席回数が3分の2に達しない者は評価の対象にしない。

科目名 教育実習I
Title Practice Teaching I
科目区分 教職関連科目 (地域政策学部)

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

E-Mail

配当年次
4

単位区分

単位数
5

開講時期
通年

目的

教育実習は、大学での共通科目、教職に関する科目、専門科目の中で学習した理論や知識を学校現場での実践を通してより確かなものとするを目的としている。また、実際に現場の教師や生徒と関わる中で、改めて自らの教師像を見つめ直し、自身の教職への適性を見極める機会でもある。

本科目は事前研究及び実地研究、事後研究の三部から構成される。教育実習を遂行するにあたり、事前研究として教育実習に必要な心構えと最低限の技術を身につけ、教育実習へ向けた準備を行う。実地研究である教育実習では、教科指導はもとより生徒指導、学級経営、クラブ活動等に至るまでの学校での教育活動全般に関わる。教育実習を通して得た経験をもとに、事後研究として、教育実習の報告発表会を行い、教職への理解を深め、教師として身につけておくべき資質や能力の確認を行う。

達成目標

1. 学習指導および生徒指導の基礎・基本を習得する
2. 教師としての専門的知識・技能や実践的指導能力を身につける
3. 教育実習を通して、教師の使命感や自らの教育観を確立する

スケジュール

< 事前指導：前年度～4月 >

1. ガイダンス (履修方法、授業の進め方)
2. オリエンテーション (教育実習の意義と心構え、教育実習の流れ、教育実習日誌の書き方)

< 事前研究：4～5月 >

3. 実習先及び教材の研究
4. 模擬授業 (授業プラン作成、学習指導案の書き方、模擬授業の実施と討論)

< 実地研究：5～11月 >

5. 教育実習

< 事後研究：7～11月 >

6. 教育実習報告発表及び反省会
7. 最終レポートの作成と提出

教科書・参考文献

教科書 『教育実習の手引き』 (改定六版)、高崎経済大学、2013年。

参考書 教育実習を考える会 (編) 『教育実習生のための学習指導案作成教本 社会・地歴・公民科』
蒼丘書林、2005年。

授業外での学習

<事前研究> 課題の内容はガイダンス時に指示する。学習指導案の書き方については事前に上記の参考文献もしくは他の講義の際に学習したノートを使い、あらかじめ学んでおくこと。

<事後研究> 実地研究 (教育実習) の記録を前もって整理し、最終報告書を作成しておくこと。

評価方法

事前研究 (15%)、教育実習校による評価 (75%)、事後研究 (5%)、最終レポート (5%)

履修上の注意

- ・本授業は集中講義で実施するので、スケジュール等の掲示による連絡を十分に確認すること。
- ・本シラバスのスケジュールはあくまでも目安であり、実際の日程等詳細についてはガイダンス等で説明する。
- ・4月以降、教育実習の辞退について大学側は一切これを認めない。「教育実習」中の欠勤も認めない。

科目名 教育実習Ⅱ
Title Practice Teaching II
科目区分 教職関連科目 (地域政策学部)

担当教員 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分

単位数
3

開講時期
通年

目的

教育実習は、大学での共通科目、教職に関する科目、専門科目の中で学習した理論や知識を学校現場での実践を通してより確かなものとするを目的としている。また、実際に現場の教師や生徒と関わる中で、改めて自らの教師像を見つめ直し、自身の教職への適性を見極める機会でもある。
本科目は事前研究及び実地研究、事後研究の三部から構成される。教育実習を遂行するにあたり、事前研究として教育実習に必要な心構えと最低限の技術を身につけ、教育実習へ向けた準備を行う。実地研究である教育実習では、教科指導はもとより生徒指導、学級経営、クラブ活動等に至るまでの学校での教育活動全般に関わる。教育実習を通して得た経験をもとに、事後研究として、教育実習の報告発表会を行い、教職への理解を深め、教師として身につけておくべき資質や能力の確認を行う。

達成目標

1. 学習指導および生徒指導の基礎・基本を習得する。
2. 教師としての専門的知識・技能や実践的指導能力を身につける。
3. 教育実習を通して、教師の使命感や自らの教育観を確立する。

スケジュール

<事前指導：前年度～4月>

1. ガイダンス (履修方法、授業の進め方)
2. オリエンテーション (教育実習の意義と心構え、教育実習の流れ、教育実習日誌の書き方)

<事前研究：4～5月>

3. 実習先及び教材の研究
4. 模擬授業 (授業プラン作成、学習指導案の書き方、模擬授業の実施と討論)

<実地研究：5～11月>

5. 教育実習

<事後研究：7～11月>

6. 教育実習報告発表及び反省会
7. 最終レポートの作成と提出

教科書・参考文献

教科書 『教育実習の手引き』 (改定六版)、高崎経済大学、2013年。

参考書 教育実習を考える会 (編) 『教育実習生のための学習指導案作成教本 社会・地歴・公民科』
蒼丘書林、2005年。

授業外での学習

<事前研究> 課題の内容はガイダンス時に指示する。学習指導案の書き方については事前に上記の参考文献もしくは他の講義の際に学習したノートを使い、あらかじめ学んでおくこと。
<事後研究> 実地研究 (教育実習) の記録を前もって整理し、最終報告書を作成しておくこと。

評価方法

事前研究 (15%)、教育実習校による評価 (75%)、事後研究 (5%)、最終レポート (5%)

履修上の注意

- ・本授業は集中講義で実施するので、スケジュール等の掲示による連絡を十分に確認すること。
- ・本シラバスのスケジュールはあくまでも目安であり、実際の日程等詳細についてはガイダンス等で説明する。
- ・4月以降、教育実習の辞退について大学側は一切これを認めない。「教育実習」中の欠勤も認めない。

科目名 世界地誌
Title World Topography
科目区分 教職関連科目 (地域政策学部)

担当教員 大島 登志彦 (オオシマ トシヒコ)
教授 大島 登志彦 (オオシマ トシヒコ)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期
前期

目的

地球及び世界全体の幾つかの事象と概要を学ぶことを通して、世界地誌的素養を身につけさせる。また、学生各自の興味ある国または海外旅行のツアーに関わるレポートをまとめさせることによって、諸外国の事情や海外旅行に関わる問題点を把握させる。さらにその内容を発表させることを通して、資料作成とレポートを再考して指導できるスキルを養うことを目的とする。なお、「専門地域調査士」に認定(2012年、日本地理学会)され、その資格との関連で学習・実践した地理調査の基礎、各種地図や世界各国の地理的素養を、授業に反映させている。

達成目標

地球の運動や世界全体の概要、地形や気候の現状と特徴を、人々の生活と関連させて学習する。また、上記したレポート課題を通して、海外に興味関心を示し、調査する資質を身に着ける。また、受講者全員の発表を通して、世界各地の地誌の事例学習をするとともに、発表のための資料作成と能力を効果的に身につける。

スケジュール

- 第1回 当授業の概要説明と地理歴史科目の教職課程
- 第2回 地理学の概念と地誌学の概要
- 第3回 世界の地域区分と各地域の特性と諸問題
- 第4回 世界の国々や海外旅行ツアーの調査方法とレポート課題の指示
- 第5回 地球のあらましと時間
- 第6回 地形・国家と領域
- 第7回 世界の気候区分と気候地域
- 第8回 日本と世界の関係
- 第9回 海外旅行に関わる地理的諸問題
- 第10回 レポートの提出とその講評、発表の指示
- 第11回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 (1)
- 第12回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 (2)
- 第13回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 (3)
- 第14回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 (4)
- 第15回 本授業の総括と定期試験の指示

教科書・参考文献

- 教科書 地図帳を各自持参：高校の地理の授業で使った地図帳
授業の概要や要点：毎回プリントを配布します。
- 参考書 必要に応じて、その都度指示します。

授業外での学習

学期内に数枚配布する地名や用語などの穴埋め作業プリントを地図帳などを参照して完成させる。
フィールド調査を行って、課題のレポートを完成させる。

評価方法

受講態度重視 (25 % 程度)、レポートの提出とその内容の発表 (25 % 程度)
学期末に筆記試験を行う (期末試験 50 % 程度)

履修上の注意

予備知識・要望：中学校での地理学習を理解していることを前提として授業を進める。また、高校で地理を履修していることが好ましい。資格への対応：地理・地誌に関わる試験や検定を受けたり自主的な旅行をした学生には、その成果を評価します。(旅行業務管理者、旅行地理検定、地図地理検定、各種の通称ご当地検定など地理・地誌に多少関わる資格や検定各種)

科目名 日本地誌
Title Japan Topography
科目区分 教職関連科目 (地域政策学部)

担当教員 大島 登志彦 (オオシマ トシヒコ)
教授 大島 登志彦 (オオシマ トシヒコ)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期
後期

目的

日本及び身近な群馬県の歴史や概要を学んだうえで、現在の日本における地方都市の問題や環境問題などを考察させる。また、身近な地域の地理・歴史的文化遺産の調査をレポート課題として、各自で文化遺産をみつけて現地をさせ、目で見て確認させる習慣を身につけさせる。さらにその内容を発表させることを通して、資料作成とレポートを再考して指導できるスキルを養うことなどを目的とする。なお、「国内旅行業務取扱主任者」(現在の資格名は管理者)試験に合格し、「専門地域調査士」に認定(2012年、日本地理学会)されている。その資格との関連で学習・実践した日本国内各地の地理・歴史的特徴や地名事情、フィールド調査の見聞などを、授業に取り入れている。

達成目標

日本全国と群馬県のおおまかな地誌を理解する。都道府県レベルの地域区分や各地域の概要、郷土に関する地誌的教養を学び、歴史地理の指導的要素を高め、この課題のレポートを課す。また、上記したレポート課題を通して、各自の身近な地域を再認識して、調査する資質を身に着ける。また、受講者全員の発表を通して、日本全国各地の地誌や遺産を事例学習するとともに、発表のための資料作成と能力を効果的に高める。

スケジュール

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本の地誌の概要と課題
- 第3回 日本の地形と地域区分の歴史の変遷
- 第4回 日本の文化遺産の概要とレポート課題の指示
- 第5回 群馬県の概要と地域区分
- 第6回 上毛かるたとその地理的意義
- 第7回 地図の基本と読み方
- 第8回 温暖化と最近の日本の気候
- 第9回 自然災害と地震・原発事故の考察
- 第10回 日本の市町村や地名に関する考察
- 第11回 レポートの提出とその講評、発表の指示
- 第12回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 (1)
- 第13回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 (2)
- 第14回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 (3)
- 第15回 本授業の総括と定期試験の指示

教科書・参考文献

- 教科書 地図帳を各自持参：高校の地理の授業で使った地図帳
授業の概要や要点：毎回プリントを配布します。
- 参考書 必要に応じて、その都度指示します。

授業外での学習

学期内に数枚配布する地名や用語などの穴埋め作業プリントを地図帳などを参照して完成させる。
身近な地域のフィールド調査を行って、課題のレポートを完成させる。

評価方法

受講態度重視 (25%程度)、レポートの提出とその内容の発表 (25%程度)
学期末に筆記試験を行う (期末試験50%程度)

履修上の注意

予備知識・要望:中学校での地理学習を理解していることを前提として授業を進める。また、高校で地理を履修していることが好ましい。資格への対応:地理・地誌に関係した試験や検定を受け自主的な旅行をした学生にはその成果を評価します。(旅行業務取扱管理者、旅行地理検定、地図地理検定、高崎学検定等通称ご当地検定など地理・地誌に関わる資格や検定各種)